

令和6年度 第1回吹田市シティプロモーションアドバイザー会議 議事要旨

1 日時

令和6年8月5日（月）14：00～16：00

2 会場

吹田市役所 高層棟3階 災害対策本部会議室

3 出席委員

池田 千恵子氏（兵庫県公立大学法人 芸術文化観光専門職大学 芸術文化・観光学部 准教授）

森 俊弥氏（一般社団法人 Creator Agency 理事長）

八木 浩子氏（ジェイコムウエスト 北大阪局 地域プロデューサー）

伴 晴香氏（サンケイリビング新聞社 編集部 部長）

佐賀 健太郎氏（吹田商工会議所）

奥谷 康人氏（吹田青年会議所 副理事長）

田邊 幹雄氏（市民委員）

4 欠席委員

黒木 啓良氏（近畿経済産業局 地域経済部 地域連携推進課 課長）

5 出席職員

事務局：井田部長、脇寺室長、岡田参事、宮下主幹、木村主査、坂井係員

障がい福祉室：日比参事、小西主幹、小澤係員

シティプロモーション推進室：田中参事、山下主幹、宮下主幹、坂井係員

オブザーバー：広報課 中嶋課長

6 傍聴者

なし

7 報告事項

（1）シティプロモーションビジョンの進捗状況～シティプロモーションの全庁化

8 案件

（1）障がい福祉室の取組について

（2）シティプロモーション推進室の取組について

（3）2025万博を契機とした取組について

（4）Osaka Flower Carpet に関する取組について

9 主な質疑、意見等

【8（１）障がい福祉室の取組について】

発言者	発言内容
委員	手話そのものにどういう風に興味を持ってもらおうかという前段が無い。 ステップ形式で企画を組んでいくのか、SNS のトレンドに合わせて発信していくのか検討する必要がある。興味が無い人には興味を持ってもらう、興味が無い人には実際に手話の取組に参加してもらう後押しが必要。 手話講習会と定時講習会について、こちらの参加人数はどれくらいか？
障がい福祉室	講座内容としては入門コースと会話コースの2つあり、それぞれ昼の部と夜の部を設けている。定員は通常 40 名を設けているが、コロナ等の関係でここ数年人数制限を設けている。今年度はそれぞれ 15 名程度で開催している。 来年度については、教室のサイズを通常に戻す予定のため、参加人数も通常に戻る予定。ここ数年、人数制限による受講希望者の落選者数が多く、定員数や講座の開催日を増やすなどして課題解決に取り組む。
委員	新規の受講希望者が多いイメージか？
障がい福祉室	新規の方が多いイメージ。
委員	オフラインのイベントはオンラインでの情報発信との親和性が高い。例えば Instagram 等であれば地元にもリーチしやすいものなので、そういったことを念頭に置いて取り組んでもよいのでは。また市内の大学生との連携も図るのであれば、SNS の親和性も高いのでより効果的なのではないか。あるものに掛け算をしていくイメージで連動させていくことにより、希少性の高めていくことができると思うので、その点も検討して欲しい。
委員	原課として、すいたん手話トライを広めていきたいということであるが、改良はもう少し要るのではないかと感じた。例えば実際にすいたんが街に出てみて市民に手話クイズを出してみることで、狭い範囲にはなるが出演した市民の身内の人が見てくれる。それによって再生数はある程度伸びるのではないかと。またガンバ大阪やすいたフェスタなどとの連携により、再生数は伸びるのではないかと。またサムネの撮り方やバックグラウンドの整理が無いとクリックしてもらえない。併せてターゲットを明確にする改善も必要かと思う。 また、市内大学との連携とあるが、大学だけでなくその系列の幼稚園等とも連携ができると良いと思う。
委員	手話を広めるためにすいたん手話トライというコンテンツは必要だと思うが、市の条例になったのであれば手話は当たり前のもにしていかなければならない。小中学校の授業の中に組み込んでもらう、市職員採用試験に導入するなど、この条例を市が体現することも必要なのではないか。それによりメディアにも取り上げてもらい、吹田市で手話を当たり前にしていく。

	そこまでしないと、コンテンツだけ作っても展開していかないと思う。吹田市にとって手話は当たり前という空気作りが必要。 取り組んでいる内容を SNS のコンテンツに繋げるということと、市自体がとても注力して実践しているということを見せることが大事。
委員	市内の聴覚障害を持っている児童は普通の学校に通っているのか、または支援用の学校に通っているのか？
障がい福祉室	市の教育委員会に確認したところ、難聴学級のセンター校として位置づけられてある学校もあり、手話のできる教員が配置されている。
委員	実際に市民から手話が必要だと感じてもらえないと普及は難しい。 聴覚障害を持っている子と普通の子と一緒に授業を受けることができたり、先生がみんな手話をできたりなど根本的なところから改善しないといけない。 小中学校の授業に継続的に取り入れていくのも必要。
委員	手話に関する条例は全国的にもあるのか？
障がい福祉室	令和5年度末現在で全国 553 の自治体が条例を制定している。府内の状況では、44 自治体中 26 の自治体が制定している。
委員	つまりかなりの自治体で条例として必要だとされている。しかし、認知度としてはまだ広まっていない。やはり認知度を上げていくには「子供」の存在が必要。子供を巻き込めることができれば、親も巻き込むことができる。
委員	広報番組の製作上で、手話通訳者の方を映像に映すことがあるが、大阪の手話通訳者の団体による制約が厳しい。例えば、テレビでの放映では通訳者の映り込みは問題が無いが、ネット配信では NG が出ることもある。ネット配信する場合いくらかかるか値段交渉をしても、到底払えないような金額を要求されることがある。 そこで、今の時代 AI で手話通訳も可能であるし、継続的に市内の大学の手話サークルに協力を依頼し、市のネット配信動画に手話通訳を組み込むことができれば良いのではないかと思う。
委員	子どもを巻き込んでという意見もあったが、私はそれとは別にシニアの方々を巻き込むのも一つだと思う。手話の練習をする場を子どもと一緒にコミュニケーションをとる場に設定するのも良いのでは。他にも吹田市のイベントの最初の挨拶には手話を取り入れる等マインド形成も必要だと思う。

【8（2）シティプロモーション推進室の取組について】

発言者	発言内容
委員	視聴者層のデータを見ると若い人達が全く見ていないことが分かる。最近の子供達は自分で見たい動画を検索したりできる。吹ちゅ〜ぶの企画内容を見ていたら真面目なものが多いイメージなので、市内は公園が多いのでそれを活かして、もっと子供が見やすい動画があっても良いと思う。
委員	そもそも吹ちゅ〜ぶでやろうと思っていることは何か？
シティプロモーション推進室	吹ちゅ〜ぶを通して市民に吹田市の取組や施設、市内在住の魅力ある人を動画で紹介し、発信することで市の魅力をもっと知ってもらいたい、市政への理解を深めて欲しいということを目的に取り組んでいる。
委員	そうすると他の委員が話していた、子ども達を巻き込んだ動画の企画は難しいのか？
シティプロモーション推進室	今、その場で思い浮かんだアイディアベースだが、吹田市独自の遊びである「火水木」をテーマにした動画であれば、子ども達を巻き込んだ動画は作成できるかもしれない。
委員	単純に市民に見てもらうだけであれば面白い動画を作れば良いと思うが、行政が取り組んでいる点と吹ちゅ〜ぶ本来の目的から逸れずに「面白い」動画を作るというのは中々難しいというのが正直な感想。
委員	吹田市の配信チャンネルの中で吹ちゅ〜ぶを配信しており、面白いからチャンネル登録しようかなと思っても他の動画も流れてくることになるため、やっぱりやめておこうという風に思われてしまう。そこで別のチャンネルを立ち上げるのも手であると思う。また吹ちゅ〜ぶという名前もキャッチーではないなと感じる。冒頭もオープニングも違和感がある。YouTube のトレンドも掴んで作っていくの必要。いかにも行政っぽい YouTube というところが視聴者層に中高年の方が多い一因でもあるかなと思う。エンタメ感を出しつつ、結果的に伝えたいことが伝わるような角度の動画も必要。
委員	私自身も吹ちゅ〜ぶという存在を知らなかった。市民への周知は引き続き必要。また一市民としての意見としては、吹田は鉄道が多くあり、市の魅力にもなっているので、鉄道に関する動画があっても良いのかなと思う。他にも各地域の地域性や特徴を紹介する動画とかもあると良いのではないかなと思う。
委員	最近の若者の間には「タイムパフォーマンス」という言葉があるように、5 分の動画だけではなく、90 秒のショート動画も併せて作り、興味があったら本編を見てもらうような動線づくりが必要。
委員	目標回数が1000回/本という設定にしているが、大体の動画が1000回を超えているので、目標回数を増やすべき。3000 回見てもらえた動画があるのであれば、3000 回にするのも良いと思う。保守的に考えても最低 1500 回ぐらいには上げるべき。また大阪府全体から見て吹田市の中で光って見えるものがあると思う。企

	画を考える際には、そういったミクロ・マクロ的な視点から企画を考えることも必要。
委員	ターゲット層は決められているのか？
シティプロ モーション 推進室	動画の内容によってはターゲット層を決めている。例えば、特殊詐欺に関する動画であれば高齢者向け、公園の紹介動画であれば子育て世代向けに企画した。
委員	まんべんなく色んな層の方に見てもらうというよりかは、一番見て貰えている層に向けての動画を作成するのも視聴回数を増やす一つの手であると思う。また、出演者も市内にゆかりのある方だけではなく、もっと柔軟にキャスティングできると良いのではないかと思う。
委員	吹田市の吹ちゅ〜ぶを見れば、「〇〇」が分かるみたいなエッジが無い。またショート動画を使った本編への連動性も必要。
委員	最近の小中高大の各学校がSNSのアカウントを持っていることがある。そこと連動して広報するのも良いのではないかと思う。
委員	市内の各部活動を取り上げてみるのも良いと思う。その部活に所属しているメンバーにも広報してもらえと思う。
シティプロ モーション 推進室	市内の部活動チームの中にも他の市の部活動にはない取組等をして、光っているものを持っている団体もあると思うので、企画の検討を試みる。
委員	吹ちゅ〜ぶでは市内で「光るもの」を持っている人や取組を取り上げるなど、大きなテーマが必要。今のままでは市報など紙媒体の代わりの広報媒体みたいな印象。

【8（3）2025 万博を契機とした取組について】

発言者	発言内容
委員	市役所の役割の一つとしては、市のプロモーションに関する中心になってもらいたい気持ちがある。自分も含め、市内で活動している団体があって、その団体とかけ合わせていくってということもやっぱり市役所としても活用できる部分である、或いはプロモーション的な活動をやりたいと思っているけれども、その行動に起こせてない人をどういうふうに炙り出していくかということに、力を注いでいかないといけないと思っている。ワークショップも内容次第であると思うが、このままいくとそこまでの波及効果ないのではないのかというのを課題として感じた。
委員	吹田市に関するロゴが増えすぎている気がする。SuitableCity や吹ちゅ〜ぶのロゴなどが増えてきている中で万博に関するロゴもできるとなれば、一度棲み分けを整理した方が良い。クロスロゴの書体に字体のルールが決まっていないのであれば、デザインがバラバラに見えてしまい、市のイメージに繋がらないのではないかな？
シティプロモーション推進室	今回のクロスロゴは市のブランディングとしてのロゴの活用ではなく、各々のイメージで自由に作ってもらうことを想定している。自由に使う場合であっても、字体のルール等は必要かな？
委員	吹田市が勝手にロゴを自由なデザインを使ってクロスロゴを使ってくださいと言っているだけであって、何も知らずにクロスロゴを見た人にとっては、吹田市へのイメージには繋がらない。それであれば、四角の枠に SuitableCity ロゴ×何かというロゴの方が分かりやすい。

【8（４）Osaka Flower Carpet に関する取組について】

発言者	発言内容
委員	インフィオラータと再生紙とはどういう繋がりがあるのか？
シティプロ モーション 推進室	インフィオラータで使用した花を再資源化して再生紙に変える。今回のインフィオラータでは A4 サイズの紙を 2 万枚作成した。
委員	たくさん参加者が来るイベントであれば、岸辺のドナルド・マクドナルドハウスの前で開催したり、特別支援学校の子供達も参加できたりしたら、再生紙を貰うだけではなく、別の広がりもできると思う。
委員	毎年私の会社の記事でこのイベントを取り上げさせていただいている。読者からの反応も良い。再生紙を読者プレゼントにしたりするご協力も可能。
委員	再生紙の質感は和紙のようなものということだが、再生紙の中に花びらや色を残したままで作成することは可能か？
シティプロ モーション 推進室	一気に乾燥させて色を抜いたりするので、難しい。
委員	もし可能であれば、その紙にストーリー性を持たせられることができると思った。再生紙に活用する花は市内の公園等で完全に自給自足にする形か？
シティプロ モーション 推進室	これからそうしていきたいと考えているが、完全自給自足は難しい。今回のインフィオラータでは約 10 万本の花を使用している。今回は新潟のチューリップ農家さんから捨ててしまう花をいただいた。
委員	フラワーロスが個人的に嫌いで、今回の会議で合理性のある事業であるということが分かり良かった。
委員	事業としてはストーリー性もあり、循環があって良い取組だと思う。
委員	告知はどのように行われているのか？
シティプロ モーション 推進室	市報や市公式 LINE、すいたん SNS で告知を行っている。
委員	参加者数が少ないと感じた
シティプロ モーション 推進室	限られた空間で実施しているため、制限を設けている。
委員	万博記念公園だけではなくて、複数の場所で開催できれば、その公園の告知も併せて広めていくことができるのではないかなと思う。
委員	市民の方にこの事業のプロセスの中に関わって欲しいと思うのはなぜか？

シティプロ モーション 推進室	今は外部からの花を活用しているが、ゆくゆくは市内で育てた花を活用したいと考えている。また花を育てる過程の中で子供達に育ててもらいたいと思っており、自分が育てた花をインフィオラータの形に代わるところを体験して欲しい。インフィオラータの他にも、花の咲くサイクルの中で、育てた花を敬老の日のプレゼントにするなど、そのような活用ができないか検討もしている。
-----------------------	--